

まえるとき、スーフイズムを一つの思想として捉えるよりもむしろ、信仰的にいかに生きるかという「生き方」として捉えることができるのではないかと結論づけた。なお参加者は約80名であった。

第349回研究報告会（6月27日）

「かしの・かりもの」の教え

松谷 武一（天理教南華分教会前会長）

松谷氏はまず、「神のからだ」という教えは「かしの・かりもの」の教えと同様のものであり、その上でこの教えを体得していくことの必要性を述べた。そして、「おふでさき」で説かれた教えを、史実考証というアプローチで追求していく道程について、宇野義晴氏のもとで研鑽された時のことを紹介された。「おふでさき」の各表紙に書かれた初代真柱の筆跡研究、「おふでさき」が書かれた時期（日付）推定の過程など、大変興味深かった。そのうえで、『ビブリア』53号に掲載された宇野義晴「天理教資料研究」（2）と中山正善『外冊『おふでさき』の研究』を根拠にしながら「おふでさき」における十年と三年三月について述べ、原典に説かれる「こくげん（刻限）」は非常に重く、「よきづくめ」へとつながるものであることが強調された。

（堀内記）

連載執筆のねらいと執筆者紹介

英語文献にみる天理教

天理教の海外伝道を推し進める上で、いつ、どこで、だれが、なにを、どのように伝えるかは、その当初から大きな課題であり、教会本部、日本の関係教会、そして現地拠点において、布教師、言語、布教地の政治・社会・文化などのさまざまな要因が検討されてきた。加えて、天理教の布教師、教え、組織、布教方法、諸活動などが、伝道地の日本人以外の人々から、どのようにみられ、また認識されてきたかを知ること、海外伝道のあり方や展開を考える上で非常に重要なことである。本連載では、先行研究などを踏まえつつ、主に欧米のメディアや政府公文書などに注目して、その記述の背景を明らかにしながら、天理教がどのようにみられてきたかを考えたい。

尾上貴行（おのうえ たかゆき）

天理大学おやさと研究所講師。天理大学外国語学部英米学科を卒業後、オーストラリア・ビクトリア州立モナシュ大学修士課程修了。平成6年4月から同28年3月まで天理教海外部の北米・オセアニア課、ヨーロッパ・アフリカ課などで勤務。平成28年4月よりおやさと研究所所員。専門は日系移民研究、天理教海外伝道史、地域研究（オーストラリア、イギリス）。

2022年度公開教学講座のご案内

— 信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ（8） —

2022年度の公開教学講座は、次の日程で、昨年度と同様にオンラインでの配信を予定しております。ただし、状況に応じて、対面での開催も検討いたします。

第1回 5月	永尾教昭所長 151話「をびや許し」 オンライン配信中	第4回 10月	八木三郎研究員 108話「登る道は幾筋も」
第2回 6月	澤井真研究員 111話「朝、起こされるのと」 オンライン配信中	第5回 11月	森洋明研究員 119話「遠方から子供が」
第3回 9月	岡田正彦研究員 139話「フラフを立てて」	第6回 1月	堀内みどり主任 126話「講社のめどに」

グローバル天理
第23巻 第8号（通巻272号）

2022年（令和4年）8月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 永尾教昭
編集発行 天理大学 おやさと研究所
〒632-8510 奈良県天理市仙之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan